

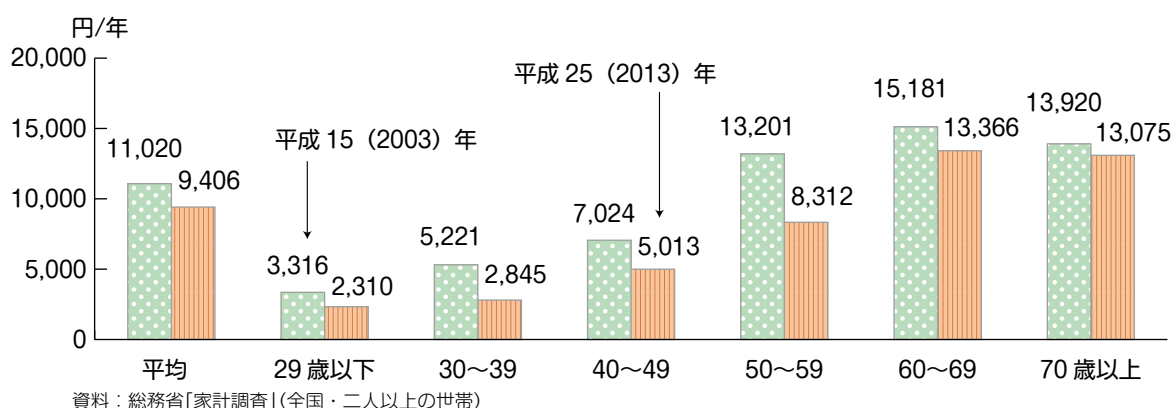
(6) 花き

(花きの消費拡大が重要)

平成23(2011)年の花きの産出(出荷)額は、3,671億円¹となっており、愛知県においては、花きが全農業産出額の2割弱を占める²など地域の重要な産業となっています。また、花きは新規就農者の割合が高く、基幹的農業従事者のうち39歳以下の占める割合は平均に比べ高く³なっています。

切り花の年間購入金額の推移をみると、10年前に比べて減少しているものの、世帯主が60歳以上の世帯の購入金額は依然として高くなっています。また、29歳以下等の若年層ほど購入金額が低い傾向があります(図2-4-12)。

図2-4-12 世帯主の年齢階層別1世帯当たり切り花の購入金額の推移



このような中、花きの消費拡大には、花きを購入しない層や購入額が低い層への働きかけが有効と考えられることから、フラワーバレンタイン等の新しい記念日の設定による購入のきっかけづくりや、花きの癒やし・ストレス軽減効果のPR、花育の普及等を推進しています。また、伝統文化である「いけばな」や、桃の節句等の季節の行事と一体となった日本の花文化の普及啓発や日常で花に触れる機会を増やすため、オフィスや公共空間での利用拡大、観光やインテリア等他分野との連携を進めることが必要と考えられます。

(花きは輸入額、輸出額ともに増加傾向)

平成24(2012)年の花きの輸入額は、前年に比べて8%増加し545億円となっています(表2-4-2)。カーネーション、きく等切り花の輸入割合は上昇傾向にあり、特に、カーネーションの輸入割合は、平成14(2002)年の16%から平成24(2012)年の52%に大幅に上昇しています⁴。

また、平成24(2012)年の花きの輸出額は、前年に比べて22%増加し86億円となっており、近年増加傾向で推移しています。花きの輸出額のうち植木・盆栽等が95%を占める一方、切り花については1%程度となっています。我が国の切り花は、平成24(2012)年度にオランダで開催された「2012年フェンロー国際園芸博覧会」の品種コンテストで

1 農林水産省「花木等生産状況調査」

2 農林水産省「生産農業所得統計」。平成23(2011)年の愛知県の農業産出額は、2,948億円。うち、花きの産出額は、526億円(17.8%)。

3 農林水産省「2010年世界農林業センサス」。基幹的農業従事者のうち39歳以下の占める割合は、平均4.7%、花き・花木(単一経営)10.1%。

4 農林水産省調べ

多くの賞を受賞するなど、国際的に高い評価を得ており、今後の輸出拡大の余地が大きいと考えられます。

このような中、国産花きの国内シェア回復と輸出拡大を図るため、大規模な次世代施設園芸団地の整備や産地間連携によるリレー出荷を通じた、高品質な切り花・鉢物を安定供給できる体制の整備、海外におけるオールジャパン体制によるプロモーション活動等が課題となっています。

表2-4-2 花きの輸入額及び輸出額の推移

(単位：百万円)

	平成 15 年 (2003)	17 (2005)	19 (2007)	21 (2009)	23 (2011)	24 (2012)
輸入額	45,548	48,881	56,552	47,574	50,358	54,488
切り花	23,461	28,706	33,597	31,635	35,252	39,526
球根類	12,386	10,720	12,445	7,586	6,980	6,547
根付の植物等	9,701	9,455	10,510	8,354	8,126	8,414
輸出額	1,361	1,955	5,656	4,971	7,087	8,623
鉢物・盆栽・植木等	886	1,407	5,120	4,465	6,692	8,169
球根類	271	231	190	129	80	86
苗物(挿穂、接ぎ穂)	132	214	196	244	190	226
切り花(生鮮)	19	37	48	50	64	87
その他	54	66	103	83	61	55

資料：財務省「貿易統計」、農林水産省「植物検疫統計」を基に農林水産省で作成

(7) 茶

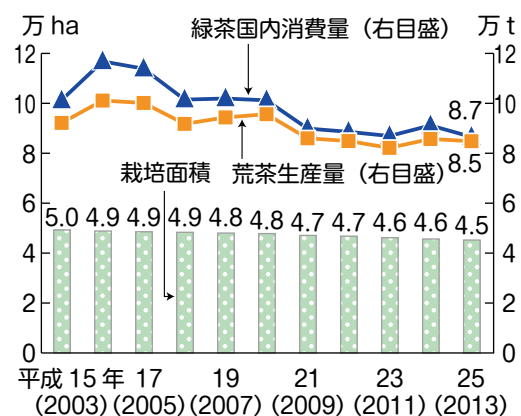
(茶の国内消費量は減少傾向)

平成 25 (2013) 年の茶の栽培面積は、平成 15 (2003) 年からの 10 年間で 8 % 減少し 4 万 5 千 ha となっています(図 2-4-13)。また、茶の生産量は緑茶飲料の需要増加により、平成 16 (2004) 年に 10 万 t を超えたものの、近年は消費量の減少とともに生産量も減少し 8 万 5 千 t 程度で推移しています。

このため、茶業の振興に向けて、茶の消費拡大を図ることが課題となっており、低カフェイン茶等の消費者の多様なニーズに対応した商品開発、新たな用途への利用に関する研究開発・普及等を図ることが重要です。

一方、緑茶の輸出量はおおむね増加傾向で推移しており、平成 25 (2013) 年は前年に比べて 592 t 増加し 2,942 t となっています¹。茶の輸出は、海外における健康志向等を背景として増加しており、今後も一層の輸出拡大が期待されています。

図2-4-13 茶の栽培面積、生産量等の推移



資料：農林水産省「作物統計」、全国茶生産団体連合会調べ
 注：国内消費量＝国内生産量＋輸入量－輸出量
 平成 23 (2011) 年及び平成 24 (2012) 年の荒茶生産量は主産県の値。

¹ 財務省「貿易統計」